

普及活動情勢報告（平成31年2月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

施設ミョウガの腐敗防止へ！ ～第2回ミョウガ腐敗防止対策プロジェクト会の開催～



対策を協議、検討

1月23日、JA土佐くろしお資材センター会議室で、JA土佐くろしお、農業技術センター、専門技術員の参加により、今年度2回目のミョウガ腐敗防止対策プロジェクト会を開催しました。

昨年の需要期を中心に行った試験や調査結果について情報提供を行い、次年度への取組について確認を行いました。

平成30年度は、高温で腐敗事故が多く問題となった26年度と同じぐらい暑かったにもかかわらず、事故件数は多くなく、これまでの取組と農家の意識向上による成果と思われます。

今後も農業改良普及課は、JA、関係機関と情報共有しながら、腐敗防止対策への取り組みを強化・支援して行きます。

冬期山間部の有望品目の探索 ～寒い冬を活かしている産地の視察～



先進地視察の様子

管内の山間部では冬期に気温が低く、夏季の露地・雨除け栽培が主体で、これまで厳冬期の換金作物がありませんでした。そこで、前年度から、冬期の寒さを逆手にとって有利販売できる品目は無いか、関係機関で検討してきました。1月28日には、梶原町で集落営農を予定している農業者やJA、普及課職員の計8名で、冬期の気象条件が似ている岡山県美作市を視察研修し、当地で栽培されている冬のハウレンソウについて認識を深めることができました。

今後、関係機関と栽培方法、販売方法等の協議を重ね、具体的な新品目の定着に向けて取り組んでいく予定です。

加工用ワサビの今年のデキは？ ～現地ほ場視察～



現地視察の様子

2月5日、津野山地域の加工用ワサビ生産者3名と、越知町の生産者のほ場視察を行いました。

越知町は津野山地域と比べて暖かく、ワサビの生育も良好でした。15aを超える大型のほ場もあり、栽培管理や収穫作業を効率的に行うための人員配置や作業の工夫など、有益な話を聞くことができました。また、今年は暖冬のため、アブラムシとケナガコナダニの発生が多く、どの生産者も防除に苦慮されていました。津野山地域の生産者の危機意識も高く、具体的な防除対策について積極的な意見交換がなされました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して加工用ワサビ安定生産のための支援を行っていきます。

春先の収量増加へ向けて ～インゲン現地検討会の開催～



現地視察の様子

1月29日、須崎市神田と中土佐町上ノ加江の2会場で、JA土佐くろしおインゲン部会の現地検討会が行われました。生産者12人が参加し、農業改良普及課とJA営農指導課と共に今後の栽培管理等を確認しました。

本年度は、天敵を用いた害虫防除や栽植方法（1条植えと2条植え）を違えた省力化技術の実証試験を行っており、農業改良普及課は実証方法や途中経過を報告しました。生産者は栽植方法を自分のほ場と比べたり、天敵の種類について質問したりしていました。

農業改良普及課は今後もJAと協力して、巡回や部会活動を通して生産者へ栽培管理や天敵、省力化技術の情報提供をしていきます。

理想の樹形に近づけるために！ ～文旦の剪定講習会～



剪定講習会の様子

2月20日、JA土佐くろしお管内の土佐ぶんたん生産者6名と、須崎市浦ノ内のほ場で剪定講習会を行いました。

講習会には講師として産地・流通支援課の日浦専技を迎え、文旦の剪定のポイントについて説明と実演をしていただいた後、参加者がペアとなって剪定作業を行いました。文旦は樹勢が強いため、たくさんの枝が茂っていました。重なり合う枝の取捨選択や将来的な樹形を見据えた剪定など、悩む点も多く、講師と参加者で丁寧に確認を行いながら、しっかりと学ぶことができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して果樹の安定生産に向けた支援を行っていきます。

研修生や従業員の人材育成を学ぶ ～指導農業士ブロック会の開催～



指導農業士の紹介の様子

2月8日、須崎ブロック指導農業士連絡協議会を開催し、多くの関係機関が同席する中、本年度新たに指導農業士となられた方の紹介が行われました。

又、担い手ブロック別交流会（講演会）も開催され、キャリア教育の専門家より研修生や従業員の人材育成について学びました。

講演会の中では、研修の最終目標は「自立」であることや、教育にはタイムラグを生じるため、「すぐできる」と思わないことなど、指導する側の意識の持ち方と、産業や学校教育が変革していることから指導する内容や方法も変わることなどの解説がなされ、参加者からは「目からうろこ！」などの感想が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も指導農業士とともに関係機関と協力して、次世代を担う人材の育成を行っていきます。